



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

就任のご挨拶

病理診断科長 美島 健二

この度、立川哲彦教授の後任として本年10月1日付けにて昭和大学歯学部口腔病理学教室教授ならびに同歯科病院病理診断科科長を担わせて頂くこととなりました美島健二と申します。

私は、平成3年に徳島大学歯学部を卒業後、奈良県立医科大学医学部第一病理学講座(現病理診断学講座・病院病理部)の大学院に入学しました。奈良県立医科大学では大学院ならびに助手として勤務した4年間、診断部門のスタッフとしてローテーションに加わり、同附属病院における病理診断業務と病理解剖に従事致しました。この時、口の中の病変が全身に及ぼす影響や、反対に、全身の病変が口の中に及ぼす影響について認識する機会が得られたことは、その後の診断業務を継続するに当たり大変良い経験となりました。その後在籍した鶴見大学歯学部では、同附属病院病理診断科の科長として病院歯科・口腔外科、開業歯科医院から依頼された検体の病理診断を担当し、大学のみならず地域医療に携わって参りました。

病理診断では、病変から組織の一部あるいは細胞を採取し顕微鏡で詳細に観察します。このことにより、病変の性格を決定し、そのまま放置しておいても、お薬の服用により治癒する病変か、あるいは手術により切除する必要がある病変かなどを明らかにします。具体的には、お口の中にできたできものの一部を採取し、顕微鏡で観察することにより、その病変が良性のものか、あるいは悪性のものかを決定します。近年、本邦における口腔内の悪性腫瘍(口腔癌)は少しずつですが、増加傾向を示しておりますので、各診療科と協力し

て、病変が重篤になる前に早期発見・早期治療に少しでも貢献できるよう努めたいと考えております。その一環として、臨床各科と合同で行う症例検討会などを通して、症例の治療法や予後などに関するディスカッションにも積極的に参加



していきたく考えています。また、病理診断は、最終診断として、治療法の選択や患者さまの予後の予測にも欠くことの出来ないものであり、その重要性と私ども口腔病理医に架せられた役割を十分認識し、これまで培った経験をもとに昭和大学歯科病院においても診断業務に従事致します。さらに、ヒトゲノムプロジェクトなどの先端科学の情報を的確に取り入れ、臨床診断の一助となる有効で精度の高い新たな診断方法の開発、疾患感受性遺伝子の同定およびその臨床応用、ひいては治療法を開発を目指したい。これらのことに加えて、私は、唾液分泌障害を対象とした治療法を開発をテーマに研究を進めており、現状では、まだまだ基礎研究のレベルですが、将来的に臨床応用可能な技術が開発できればと考えております。

現在、口腔病理学教室は、12名のスタッフからなり歯科病院の病理診断、病理解剖を担当しております。これからも、これまで以上に患者さまのQuality Of Life(QOL)の増進を目指して、より精度の高い診断を心がけて邁進する所存なのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

病理診断科 紹介

病理診断科は、平成20年度に開設された新設診療科で、歯科病院における病理診断全般を担当しています。その業務の内訳は、病理組織・細胞診、術中迅速診断および病理解剖からなります。

病理組織診では患者さまのお口の中にできた病変の一部を採取し、顕微鏡を用いてその中に含まれる細胞の形態を詳細に観察します。そして得られた顕微鏡像から、その病変がお薬で治癒する良性の病変であるのか、あるいは手術が必要な悪性の病変であるのかを決定する“確定診断”を行います。また、その結果、手術による摘出が必要だと判断された場合は、摘出された組織をさらに細かく分割し、病変の進み具合、悪性度の再評価および合併している他の病変がないかなどの判断を行います。

病理細胞診では、患者さまのお口の中にできた病変の表面からこすり取った細胞や直接病変部より注射針で採取した細胞をプレパラートに塗抹し、顕微鏡により細胞の形態を観察し、その病変の良・悪についての判定を行います。組織診がある程度の量の組織を必要とするのに対して、組織診では採取する量が少なく容易に採取が可能ですが、診断の確実性は組織診に比べると劣ります。

術中迅速診断では、手術中に組織の一部を採取し、病変の診断、手術範囲の決定あるいは病変の取り残しがないかなどの判断を行うことにより外科手術の精度の向上に役立っています。

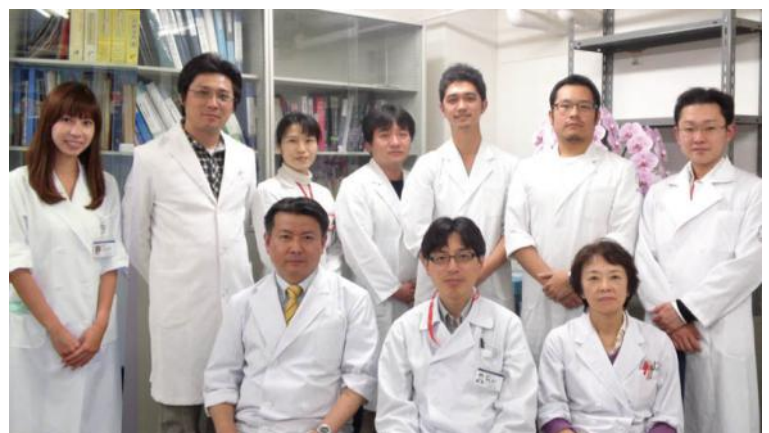
私どもが直接患者さまにお会いする機会は少ないですが、病変の確実な診断のために、各診療科と連携して、お口の中を直接拝見させて頂くこともあります。病理診断の結果は、治療法の選択、予後の予測など患者さまのQuality of Life(QOL)に直結していることから、各診療科と緊密な連携をとり質の高い医療を提供できるよう細心の注意を払っています。また、これらの歯科病院内の業務に加え、院外の病院歯科や歯科医院から依頼

された病理組織診断についても積極的に対応し、周辺地域の方々のお役に立てるよう努めております。その一貫として、他院で診断された症例に対しても客観的に評価し説明させて頂く、いわゆる“セカンドオピニオン”の相談にも対応しております。

近年、様々な疾患において遺伝子や遺伝子が作り出す蛋白質に変化が認められることが報告され、これらの情報に基づいて新しい診断法や治療法の開発が試みられています。当科においても、臨床各科や医学部病理学教室との緊密な連携を図ることにより、遺伝子やタンパク質の網羅的解析などの先端的技術を積極的に取り入れることにより精度の高い診断法の確立や予後の予測にも取り組んでおります。

現在、病理診断に従事しているスタッフは、歯学部口腔病理学教室と業務を兼任している12名よりあります。その中で、口腔病理専門医は3名(美島、河野、入江)であり、同一病変のダブルチェックないしトリプルチェックによる診断精度の維持・向上に努めております。

(病理診断科長 美島 健二)



口腔病理学教室医局にて、前列左より、入江、美島、河野、後列左より、外薗、岡田、安原、山本、田中、林、磯邊

人の歯にはピンク色をした歯肉の中に歯根と呼ばれる歯の根があります。歯内治療科はその歯根の中にある神経を通す管(根管)に細菌感染や炎症が生じたことによる疾患の治療を目的としています。

人の顔が千差万別なのと同様に人それぞれ、また同じ人の口の中でも歯それぞれで歯根の形は異なります。下の写真1のようにまっすぐな根をしていればその中の根の管(根管)もまっすぐしており、治療がし易いです。しかし写真2のようにいろいろな角度に曲がった形をしている歯根では、根の中の根管も様々な角度にまがっており治療が難しくなります。その結果治療期間が長くなったり、最悪の場合は十分な処置ができず、その歯を抜かなければならなくなる場合があります。



写真1

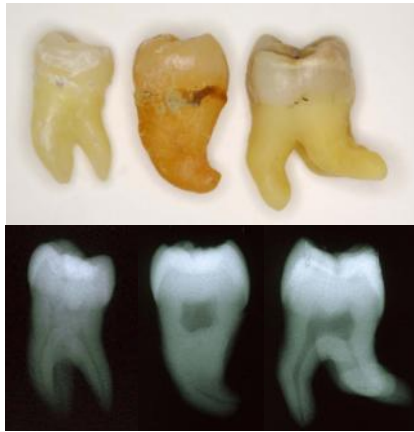


写真2

そのような場合にニッケルチタン製の器具を専用の電気モーターに接続して根管の処置を行うことができます。ニッケルチタンは通常の歯科治療で使用しているステンレス製の器具より柔らかく、大きく曲がった根管にも器具が先端まで到達させることができますので、歯の根が大きく曲がった根管の処置を行うことができます。(写真3)また専用の電気モーターに接続するので、通常のステンレス製の器具を使用する場合より治療時間を短縮させることも可能となります。

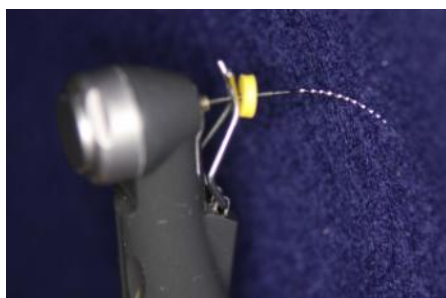


写真3

私達の歯内治療科では、2種類のニッケルチタン製器具を使用する機械を所有しており通常の器具では根管の処置が困難な湾曲した歯根をしている歯の根管治療の場合に、ニッケルチタン製の器具の使用を選択し、可能な限り歯を抜かないように治療を行うように心掛けています。(写真4、5、6)



写真4



写真5

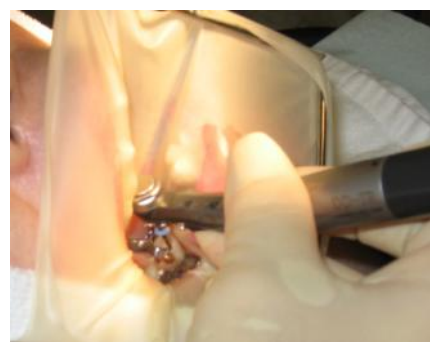


写真6

しかしニッケルチタン製の器具は万能な方法ではなく、全ての根管の治療に適しているわけではありません。その為ニッケルチタン製の器具の使用が困難な場合や、通常の処置の方が患者さまの治療に適している場合もあります。興味のある方は担当の先生に使用の可否などについて御相談ください。

平成23年度 地震防災訓練開催報告

地震防災訓練を実施しました。
平成23年11月14日(月)午後4時00分、大規模地震が発生したという想定のもと、「歯科病院地震防災訓練」が行われました。



写真1 災害対策本部内

当日は、歯科病院防災マニュアルに則って、災害対策本部設置、被害状況報告(第1・2報)の提出、診療継続の可否判断、火災発生による自衛消防隊の消火訓練、屋内消火栓の使用方法説明会を行いました。



写真2 報告待ちの列



写真3 消火器説明



写真4 屋内消火栓説明

お忙しい中、院内の皆様にはご協力を頂きありがとうございました。

また、平成23年11月21日(月)午後4時00分、東京湾岸北部を震源とする大地震が発生したという想定のもと、「旗の台キャンパスでの避難訓練」も行われました。

各部署の報告者と講義・実習担当教員は、中庭もしくは上條講堂前に設置された災害対策本部へ避難し、避難人数を報告しました。避難時の移動もとてもスムーズに行われていました。

寒空の中、皆様お疲れ様でした。

(口腔リハビリテーション科 助教 中道 由香)



写真5 旗の台キャンパスでの避難訓練



写真6 避難風景

編集後記

11月後半なのに20度以上の日もあり、豪雨の後に暖かい雨が降ったと思えば、夕方から突然晩秋のような冷気が襲って来たりと体調管理が本当に難しい今日この頃です。

皆様くれぐれもお体にお気をつけ下さい。そしてお口の健康管理についてはどうぞ昭和大学歯科病院までお問い合わせ下さい。健康も健口も日々の管理から得られます。

(K.T)

